

現場の負担を最小限に！



AIエージェント による

「報告・分析・通知」の自動化
で実現する

人の手に頼らないトラブル未然防止の仕組み



アクセラテクノロジ株式会社 ご紹介

- 設立：2001年7月

富士通(株)のベンチャー起業制度により検索技術を強みとした
ソフトウェアプロダクト開発企業として創業

- ミッション：「お客様の事業をアクセラレート（加速）」

企業の業務をナレッジ×AIの取組みでより良くする
ご支援をITシステムとサービスの両面から提供

- 代表：代表取締役社長 進藤達也 博士（情報科学）

- 商品・サービス：

SolutionDesk ナレッジ×AI®による問題解決システム（ナレッジ活用 I T）

K-Board ナレッジボード（ナレッジ創出IT）

BizAntenna 多言語ナレッジベース（自動翻訳連携）

TanQlo エンタープライズサーチ（オンプレミス製品）

BizSearch ASPサイト検索 ホームページのサイト内検索

達人シリーズ コンサルティングと I T 導入支援による業務特化型改善サービス

- 保有特許：ナレッジとAIを連携させた情報処理技術（特許第7761291号）
文書共有システムに関する技術（特許第5993848号）

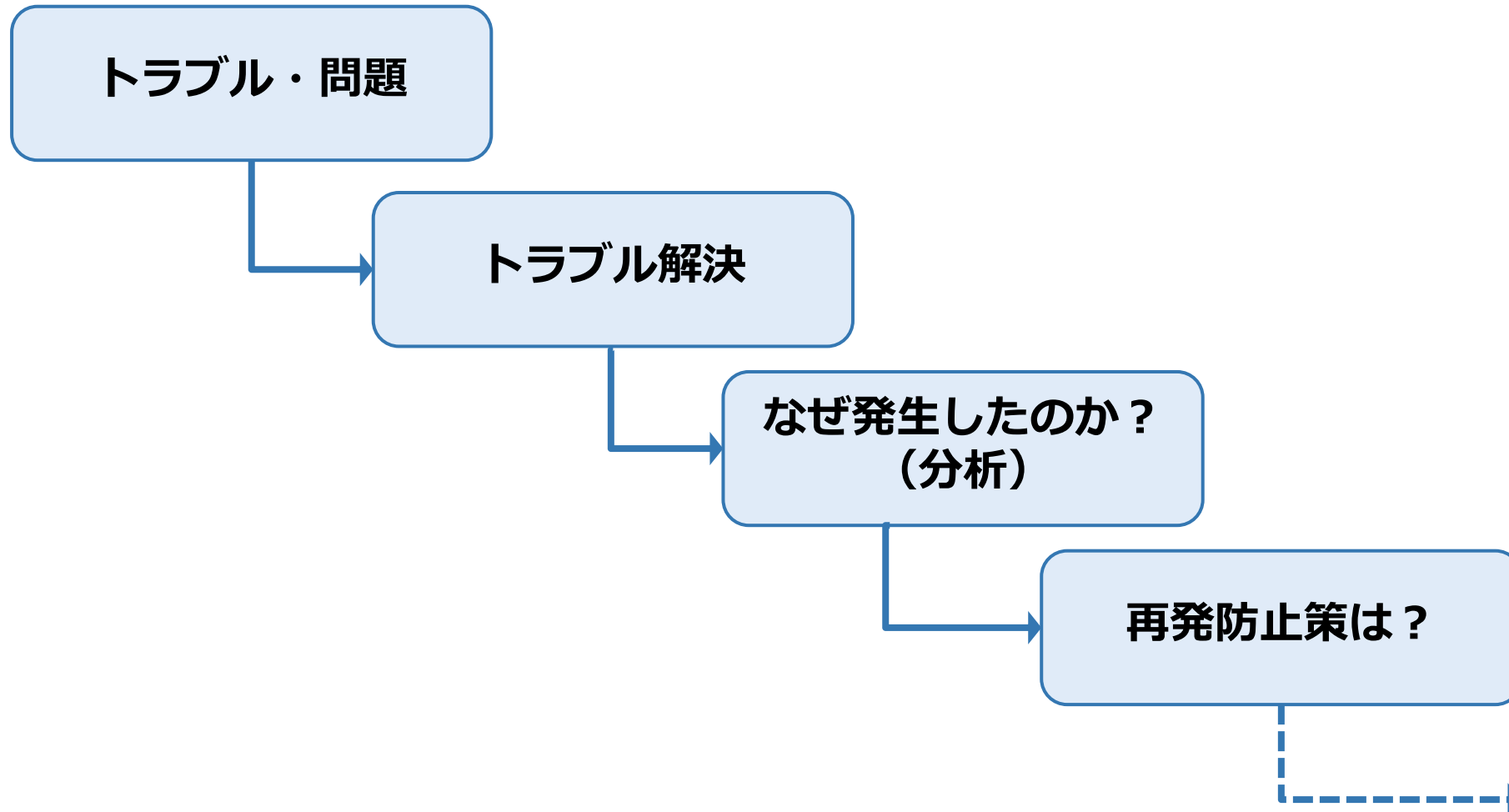
アジェンダ

- 過去トラの活用とは
- 過去トラ蓄積・活用を阻む「見えない壁」
- AIエージェントによる報告・分析・通知自動化
- 運用例のご紹介
- SolutionDeskのご紹介
- 導入支援のご紹介・まとめ
- 質疑応答

セッション1 過去トラの活用とは

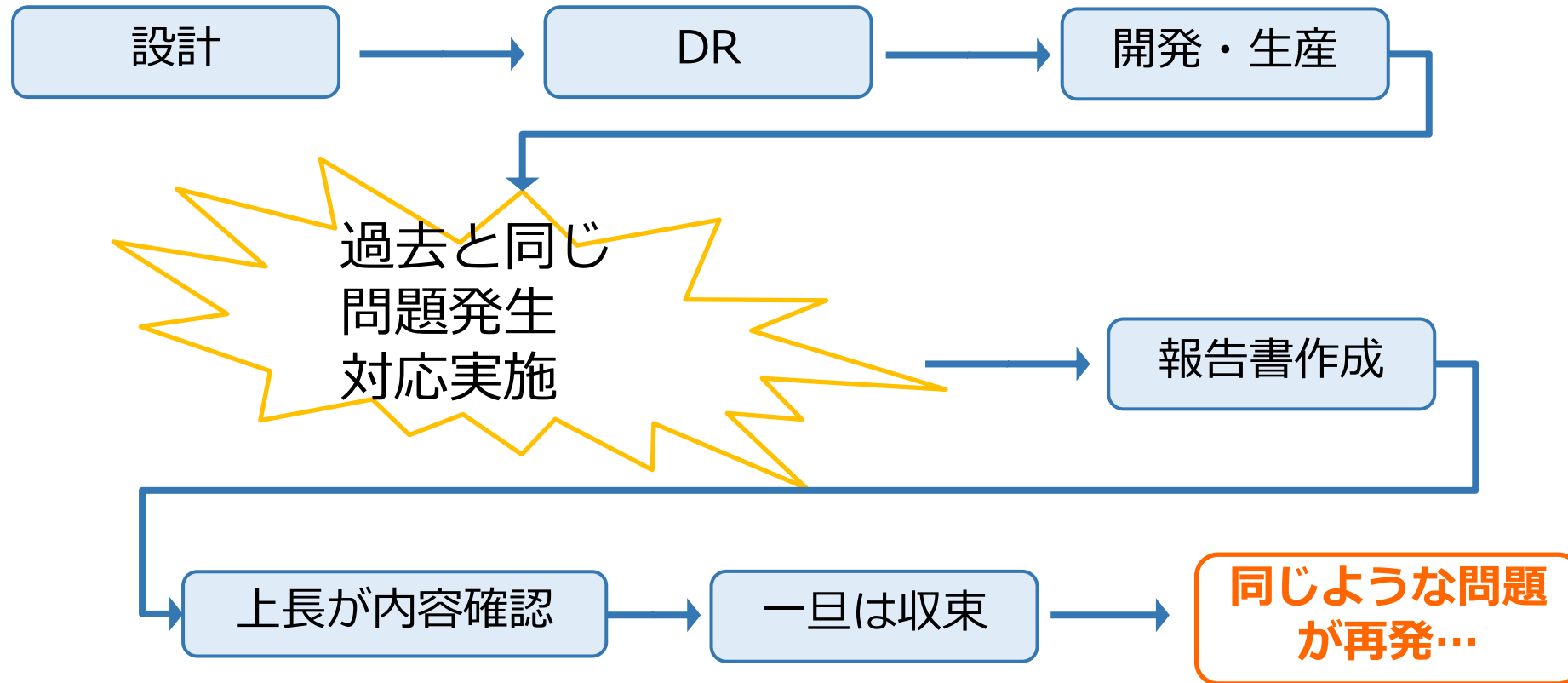
過去トラの活用とは

発生したトラブルや問題に対して分析を行い、
同一の問題を発生しないようにする



過去トラ活用の効果・メリット

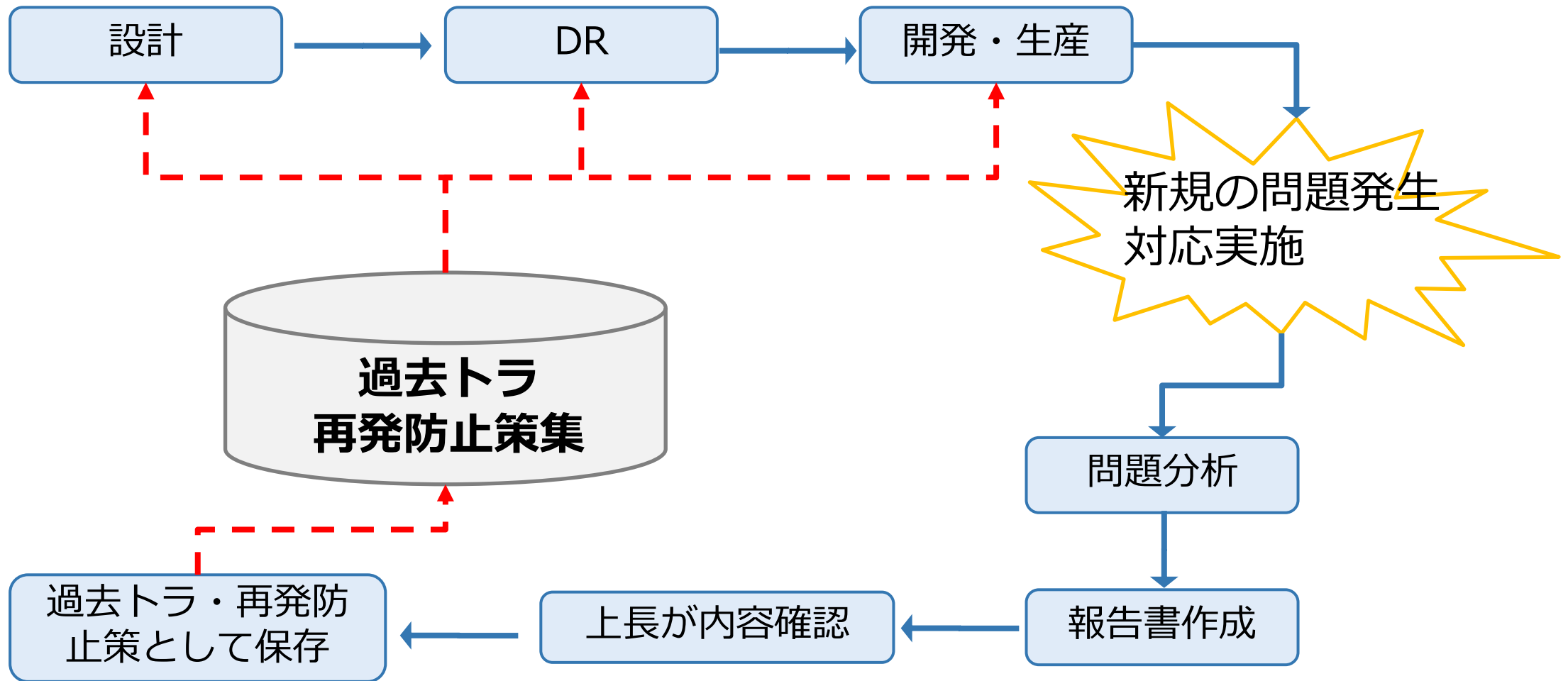
Before : よくある問題発生とその後の流れ



- ・ 作業や製品の品質低下
- ・ 顧客満足度低下、クレームの増加
- ・ 問題対応工数の増大

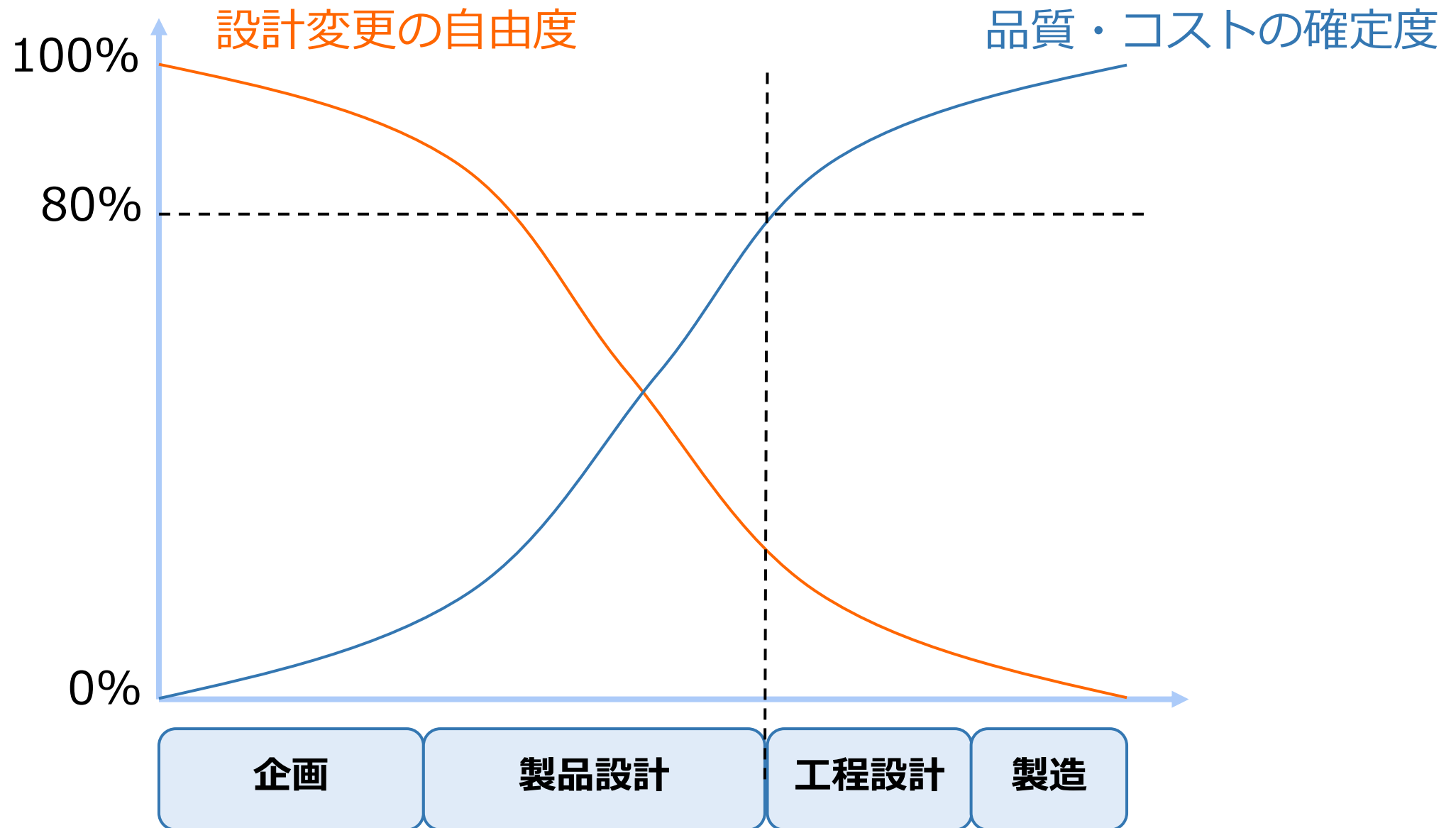
過去トラ活用の効果・メリット

After : 過去トラ活用後の流れ

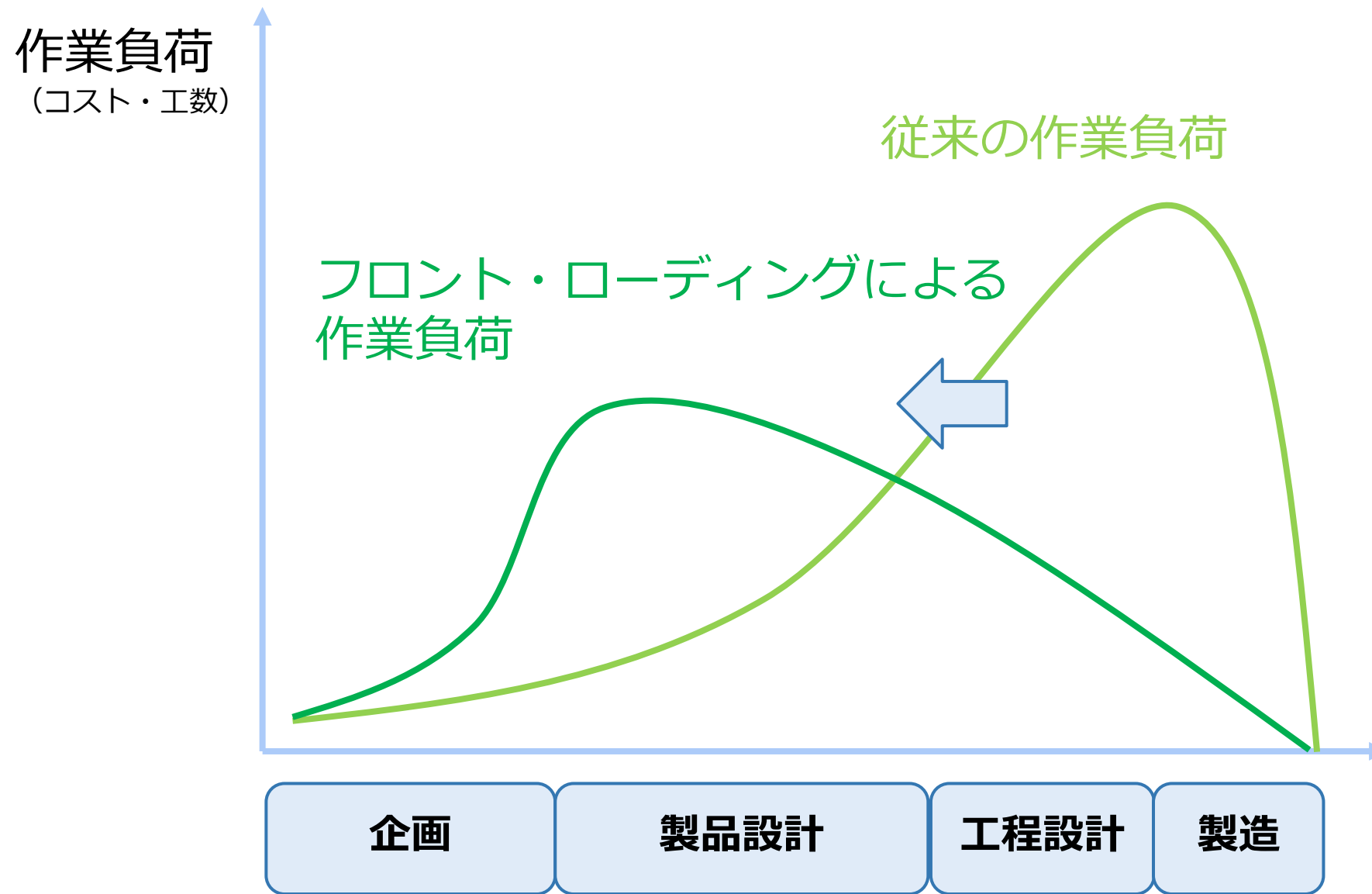


「既知の事例を活かす・学ぶ」

なぜ上流工程での対策が必要なのか？



なぜ上流工程での対策が必要なのか？



セッション2 過去トラ蓄積・活用を阻む「見えない壁」

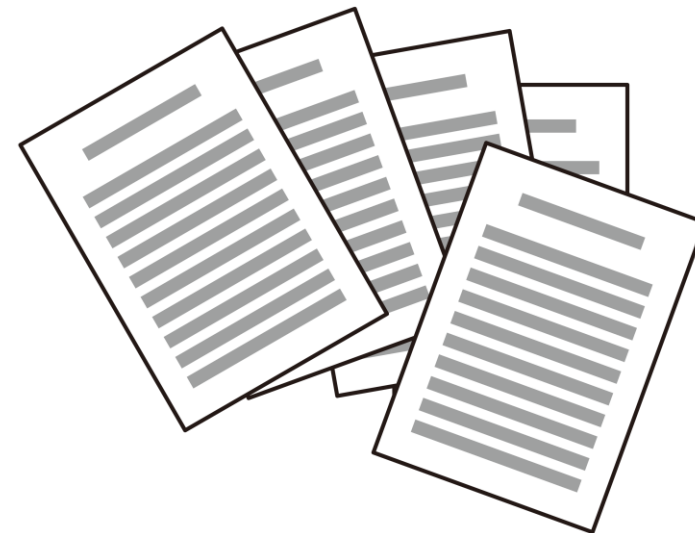
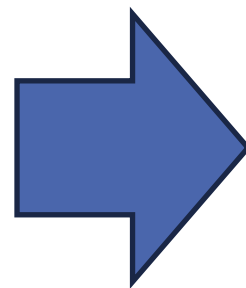
過去トラ蓄積・活用を阻む「見えない壁」

1: 「書く」ことの課題

**「書く」手間をゼロにしなければ、
過去トラ活動は現場に定着しない**



トラブル対応中の「報告」は
現場への酷な要求

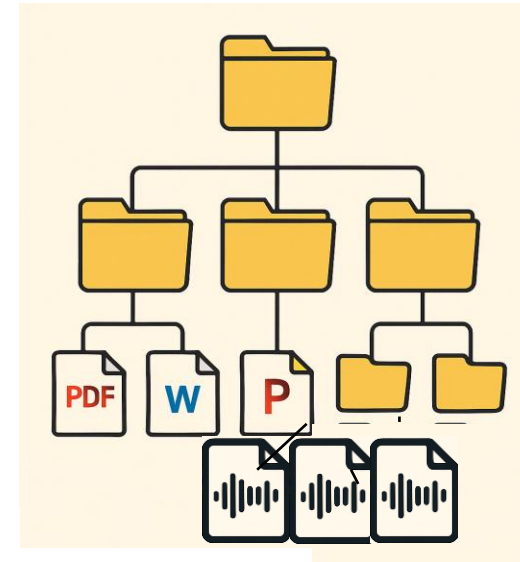
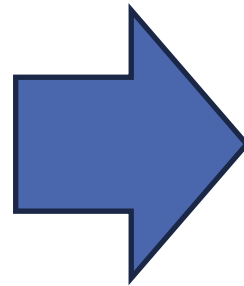
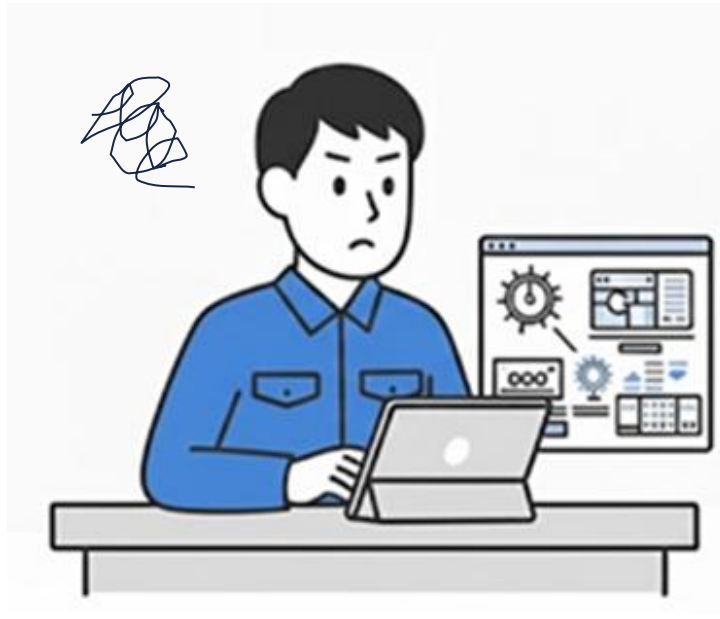


内容的に不十分な報告

過去トラ蓄積・活用を阻む「見えない壁」

2: 「探す」ことの課題

「探す」手間をゼロにしない限り、
過去トラの活用は進まない



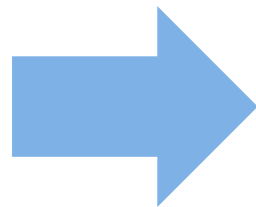
今必要な情報がどこにあるかわからない

「現場の負担をAIが代行する」 解決策へのシフトが不可欠

セッション3 AIエージェントによる報告・分析・通知自動化

解決策①「書く」を代行：報告の自動化

報告書作成をAIエージェントが代行



作業報告書（入力）

① 作業開始日時	2025 年 10 月 14 日 18 時 15 分
② 作業終了日時	2025 年 10 月 14 日 18 時 15 分
③ 作業者名	例) 田中 太郎
④ 作業内容	選択してください
⑤ 製品ロット番号	例) 1234567890
⑥ 数量（良品）	0
⑦ 数量（不良品）	0
⑧ 使用設備	選択してください
⑨ 備考／特記事項（自由入力）	例) 10:15～10:25 設備停止。異音のため安全呼出し。再起動後は正常。
■ 録音 ■ 一時停止 ■ 停止 ✎ クリア 音声入力：待機中	
⑩ 画像添付	画像をアップロード カメラで撮影 クリア 未選択

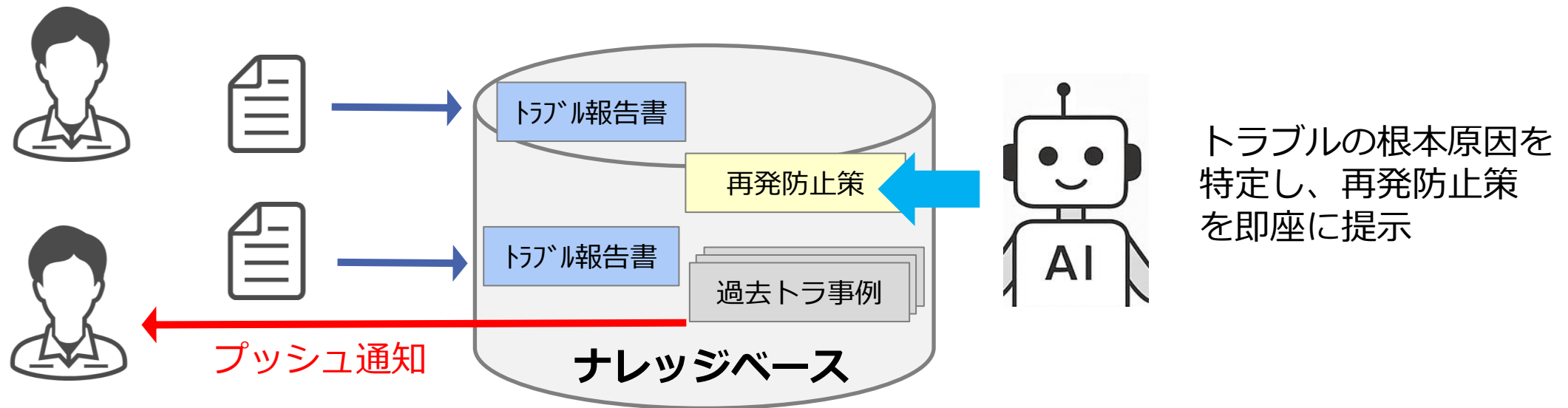
※ 送信時は JPEG（品質0.9）／最大幅300pxに縮小して Base64(JSON) で送信します。

登録

報告書作成にかかる時間を大幅削減

解決策②「分析・活用」を代行：プッシュ型のナレッジ活用

登録された報告書をもとにAIが分析を実行・再発防止策を生成



AIが状況を察知し、見るべきナレッジを自動で提示

「使える過去トラ」が自動で溜まる

現場に負荷をかけることなく、組織の財産となる「使える過去トラ」が自然に貯まっていくサイクルが確立

属人化を排除し、分析精度を均一化

AIがフレームワークに基づき、客観的かつ論理的な分析を実施
担当者の経験値に左右されない、高品質な再発防止策の策定を実現

再発防止のスピードアップ

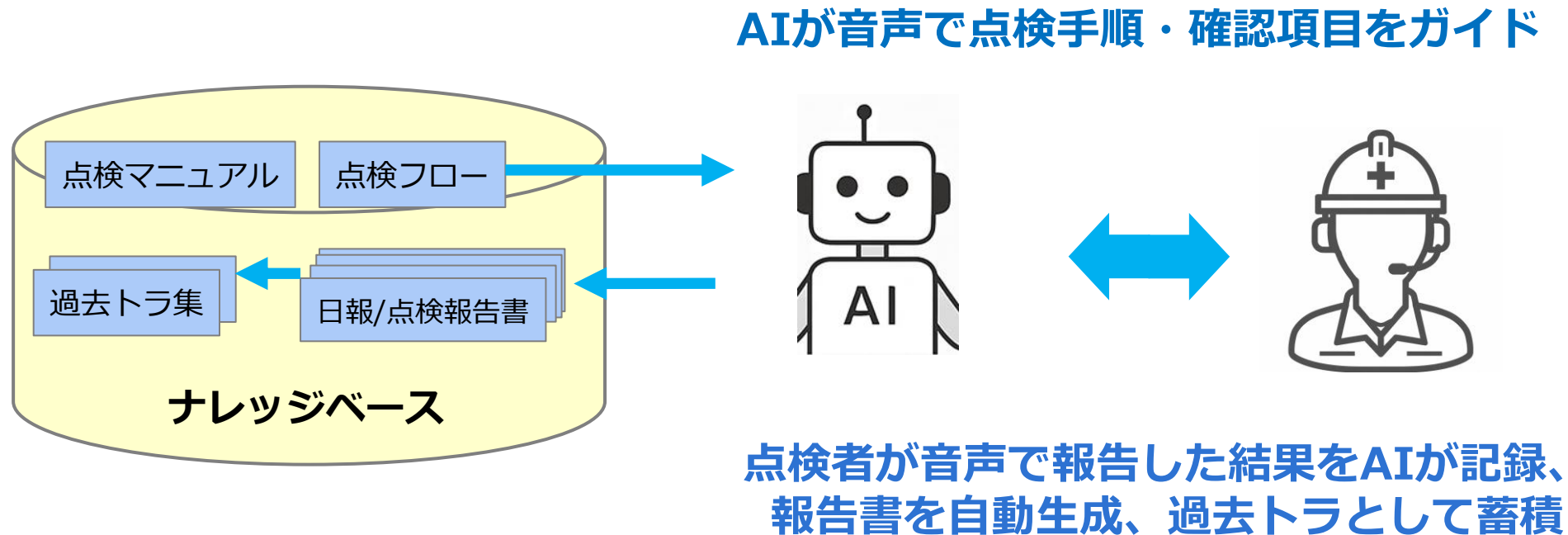
AIが必要な時に最適な情報を通知するため、情報の検索や精査にかかる工数は限りなくゼロに

**「現場に負担を強いる」過去トラ活動から、
「AIが現場を支え、自動でナレッジが循環する」新しい形へ**

セッション4 運用例のご紹介

音声報告による過去トラ蓄積

点検結果を音声で登録、登録内容をもとに報告書を自動生成⇒過去トラとして蓄積



AI音声による結果登録と報告書生成で、過去トラ蓄積の手間を大幅削減

過去トラを使った問題解決

AI質問窓口

①型番選択

型番を選んでください

TQ12000

ACL2300

TQ8000

ACL1001

ACL1000

以下のナレッジから回答します。

TQ12000におけるバッテリー(BA0002)の劣化

TQ12000におけるバッテリーショートによる設備停止

TQ12000におけるランプ(RA00001-002)の破損

TQ12000におけるランプ(RA00001-003)の劣化

TQ12000におけるバッテリー(BA0003)の機能不良

TQ12000におけるバッテリー(BA0001)の破損

TQ12000におけるベアリング(BAR00101-01)の摩

②質問入力

質問を入力してボタンをクリックしてください

質問内容

ご質問や詳細を入力してください

AIに質問

③回答表示

ここにAIからの回答が表示されます

まだ回答はありません。①でカテゴリを選択後、②から「質問」を送信してください。

ナレッジ×AIエージェントが実現する「循環型」業務革新

AIが「溜める」から始められる

AIエージェントが、日々の業務（音声、メモ等）からナレッジを**自動生成・蓄積**するところからスタート

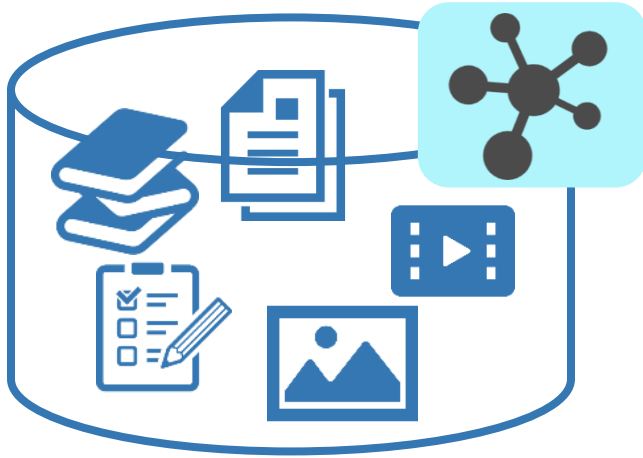
AIが「使う」から定着する

「登録」や「時間」をトリガーに、**AIエージェントが自動でチェック・分析・通知**を行い、業務プロセスに介入

伴走支援で「成果を出し続ける」

貴社の業務に合わせた「プロンプト（指示書）」を用意
貴社専用のAIエージェント（業務アプリ）を**伴走支援**と一緒に構築・育成

ツール提供と伴走型サービスの両輪でご支援



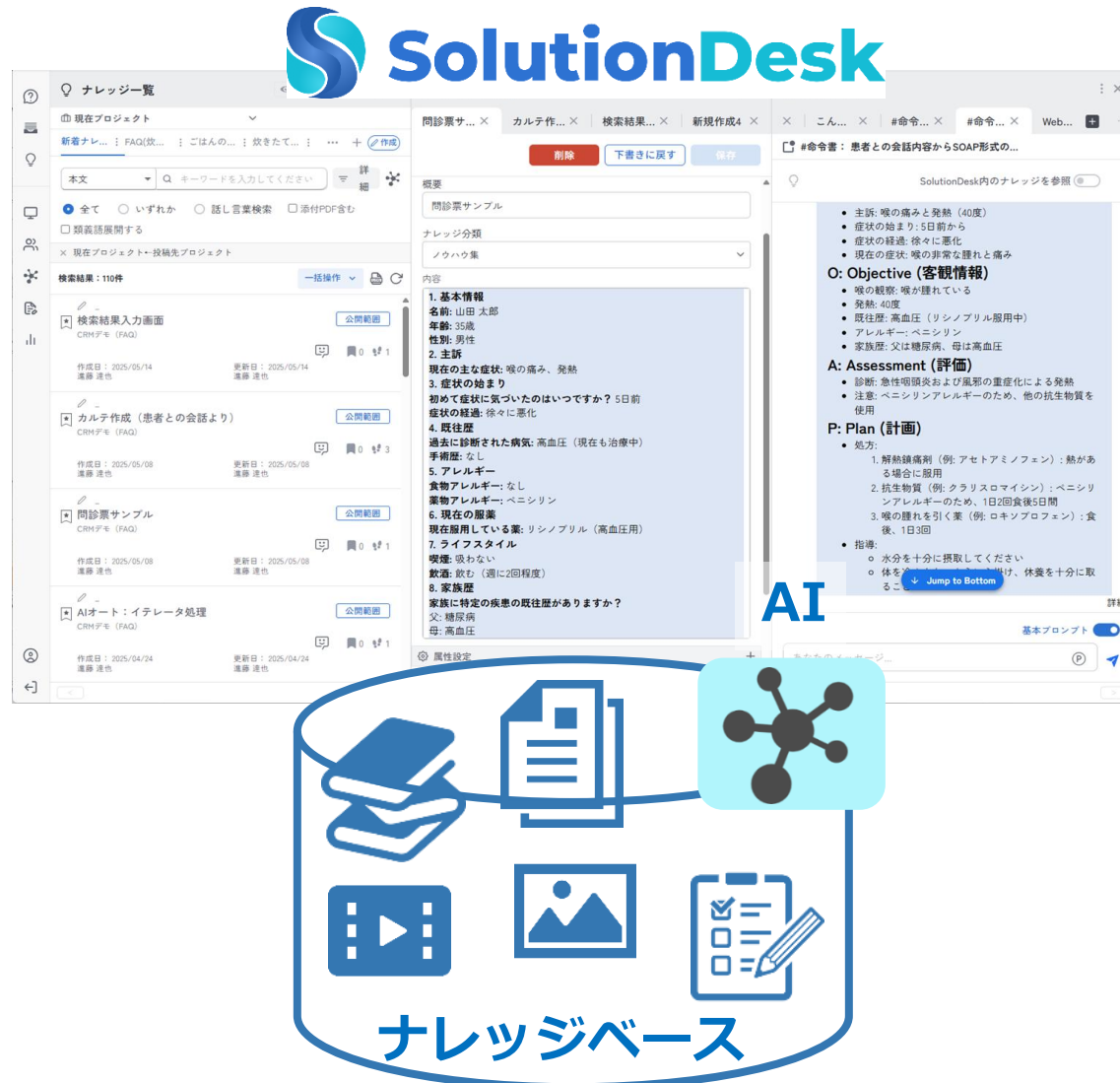
SolutionDesk



伴走支援サービス

ナレッジマネジメントに基づくAI活用ソリューション

企業内に散在するナレッジを、業務で“使える形”に整え、AIと一緒に育てていくための基盤



The image shows a screenshot of the SolutionDesk software interface. The top left features the SolutionDesk logo. The main area is divided into a left sidebar with navigation options like 'ナレッジ一覧' (Knowledge List) and '現在プロジェクト' (Current Project), and a central content area. The content area displays a medical case study with sections for '概要' (Overview), 'ナレッジ分類' (Knowledge Classification), '内容' (Content), and 'AI' (AI). The '内容' section includes a detailed medical history and diagnosis. The 'AI' section shows a list of related knowledge items. At the bottom, there is a circular icon representing a 'ナレッジベース' (Knowledge Base) with various document and media icons.

生成AIを搭載した
ナレッジマネジメント基盤

部門ごとに独自の
ナレッジベースを構築

チケット管理による
業務依頼・進捗管理

業務に組み込める
実務直結AIアプリ

共通ナレッジベースを参照し
AIが業務支援・自動化

CRMやSFA、設備管理など
既存システムと柔軟に連携

ナレッジ×AIを現場に定着させ、業務変革を持続的に支援します

■ ナレッジ×AI業務実装モデル

- ・ゼロから作らない導入方式
- ・短期間で「貴社仕様」へ最適化
- ・段階的かつ柔軟な導入や拡張性

■ 継続的な伴走支援体制

- ・継続的な運用サポートと現場の実行力向上
- ・属人化防止とリスクの解消
- ・人材育成とノウハウの蓄積

